

林業とくしま

平成15年 春の緑化運動が始まりました。

緑の募金ご協力を

募金実施期間 3月1日～5月31日(春)
9月1日～10月31日(秋)



「大好きです
緑とすごせる この地球」

(平成15年徳島県緑化標語優秀作品)

日和佐小学校5年

大竹 里奈さんの作品

No. 264
2003.3

やまびこ

間伐材の有効利用で 地域活性化を…

The山師の活動

The山師会長

鎌谷輝昭

私たちThe山師の住む美郷村

は、山川町の国道一九二号から東で十分のところにあり、ゲンジボタルが飛び交う、自然がいっぱいの美しい村です。

森林面積は四、一五七haで、村の面積の八一%を占めていますが、私たちの村も例外ではなく、高齢化・少子化が進み、間伐はしておるのですが、多くの木は搬出せずにそのまま林内に放置されているような状況でした。

そこで、私たちは、その放置される間伐材を何かに有効利用し、地域の活性化を図れないかと考え、平成十一年五月にThe山師という林研グループを結成しました。

初めは、試行錯誤を繰り返していましたが、素材の良さを活かし、「木の品づくり」をコンセプトとして考えるなどし、平成十二年に東京で開催

された「ギフトショー」に、間伐材と炭化を組み合わせたガーデニング商品

を出展しました。都会の人達は、間近で木を見る機会が少ないのか、私たち

が展出した丸太そのままの商品を見

てたいへん感動していただき、予想以上の反響に会員の努力が報われたと思いました。価格に対しても、徳島では高いと思っていても東京では安い

といつ値値観の違いを、私たちが思つ

ていた以上に痛感しました。現に東

急ハンズでは、流木のような木の枝(長さ一m直径一cm約十本)が一千円で売られているのを見てびっくりしました。東京のギフトショーに出展したことによって、一つの商品に対して、あらゆる角度から見えるよう、考えるようになつたと思います。

また、私たちは、木の良さ、すばらしさ、自然の大切さを、子供達にもわかつてもらえるよう木工教室を開催

しています。子供達が少しでも山に興味を持ち、将来何らかの形で山とかわづくればと期待しています。

十四年三月に全国林研グループコンクールで林野庁長官賞を受賞する」とが出来ました。

私たちThe山師は、「地球に優しい商品作り」「間伐材を利用した商品開発」「若い人が魅力を感じる林業」そうしたことに少しでも役立てよう、これからも活動を進めていく

うと思っています。

どうかで、私たちの商品に出会えることがありますたら、手にとって耳を澄ましてみてください。私たちの声が…、笑い声が…、聞こえてくるかもしれませんよ。

これからも、ご指導よろしくお願ひします。



もくじ (林業とくしま 264号)

やまびこ(間伐材の有効利用で地域活性化を) … 2

鉄人コーナー(私の椎茸は、原木栽培一筋!) … 4

(林業機械のプロフェッショナル) … 4

林政の窓(森と人との共生を目指す千年の森) … 4

特集(巨樹・古木を未来へ) … 6

林研とみんなの情報交流コーナー … 8

技術情報(木炭づくりと調湿機能について) … 10

阿波だぬき(百たたき) … 12

東西南北 … 13

広告 … 15

鉄人コーナー

「私の椎茸は、

鴨島町

森本 恵治

の原木しいたけ」栽培をされてい
る鴨島町の森本恵治氏を紹介しま
す。

椎茸部会長を務めるとともに近年少なくなった原木栽培の仲間を集め、「ほだ木の会」を主宰し、県内の会員の相談役となつておられます。森本氏の仕事場には毎日数本の電話が入つたり、仲間の訪問があり、「よろずや相談」や「しいたけ談義」に花が咲いています。



す。しいたけをパツクに詰める時

方式だそうです。

く食べてもらえよ」とまた販売業者の立場に立つて「みんなに買つてもらえよ」と娘を嫁に出す

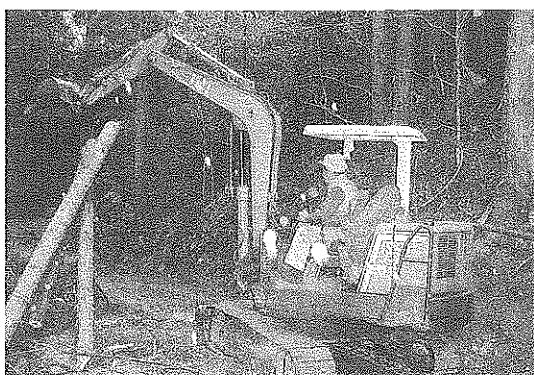
いります。

林業機械の プロフェッショナル

また育林技術も間伐材搬出だけでなく、下層木を植裁することにより複層林に取り組まれたり、タラやシキミなどを樹下に残すことにより特用林産物生産にも取り組まれています。今でも志茂田さんは更なる林業技術の向上を目指しておられます。

ご自分で改良された林業機械を楽しそうに紹介されながら、作業されていた志茂田さんの後ろ姿が印象的で

機械の改良試験を重ねた結果、搬出間伐の一一番効率の良い方法は、巻き上げ式ワインチ付きバックホーと荷台を強化した四駆二七車での搬出



森と人との共生を目指す「千年の森づくり推進事業」について

一、はじめに

森林は、緑豊かな潤いのある県民生活に重要な役割を果たしておなり、健全な森づくりは県民全体で支えることが重要となっています。そのためには、より多くの県民の方々が森づくりに参加することを通して、森林や林業の重要性への認識や協力意識を深めていただくことが必要となっています。こうした中で、県では、森と人との共生を目指す「千年の森づくり」を冠(スローガン)として掲げた「千年の森づくり推進事業」を実施しています。

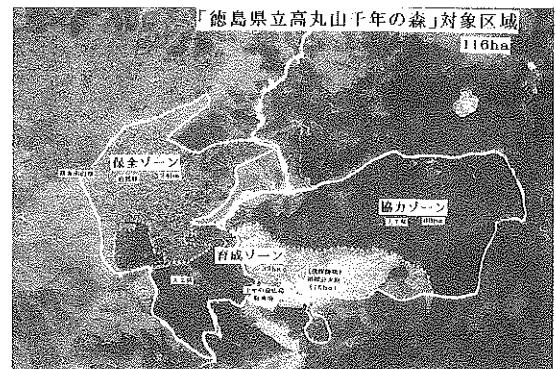
(1)普及啓発活動等の実施
事業推進に当たっては、県民の方々からの意見や提言を頂きながら①森づくり情報の収集提供(情



高丸山

報誌発行、募集広告、ポスター！
リーフレット、ホームページ作成等)②森づくり参加者の登録(森づくり友の会会員募集・登録、会員カード発行等)③森づくりネットワークの促進(森づくり活動支援、事例集づくり)④森づくり技術指針の作成等の取り組みを実施しております。

(2)「森の案内人」等の森づくりを

徳島県立高丸山千年の森対象区域
116ha

サポートする人材の育成

森づくり活動の指導者として、現在、一三四名の「森の案内人」を養成登録しており、県下各地で実施されている「県民参加の森づくり活動」や森林環境教育等の指導に協力して頂いています。

(3)活動拠点「高丸山千年の森」の整備

県民参加の森づくり運動の活動拠点として、ブナ原生林で知られる上勝町高丸山周辺を平成十年度に選定し、現在、平成十六年春のオープンを目標に施設整備を実施

しているところです。
県民参加による森づくりや森林環境教育等の場として多くの県民の方々に活用していただきたいと考えております。

◇主な施設

施設は、平成十一年度に策定した整備基本計画に基づき必要最小限の整備として、森づくりに必要な作業道や管理歩道の他、現地案内所、駐車場、エコトイレ、案内標識等を整備しているところです。

◇森と人との共生のシンボルを目指して

千年の森の対象地は、次の三ゾーンに区分して、「森に親しみ」、「森に学び」、「森を育てる」機会を広く県民の皆様に提供することとしています。

- ①保全ゾーン：二四ha
- ・県内でも貴重であるブナ等の自然林の保護を基本として、環境教育や野外学習の場として活用を図るゾーンです。

②育成ゾーン：三二ha
・県民参加で、植樹・下草刈り・除伐作業等の森づくりを体験する場として活用します。この、森づくりでは、多くのボランティアの方々

林政の窓



手のひらが森試験館

に参加していただき森と人との共生のシンポルに相応しい森づくりに取り組むことにしています。植栽する苗木も、自然環境を大切にするために、地域で採取された種子から育てた苗木を用いることにしています。

③協力ゾーン：六〇ha

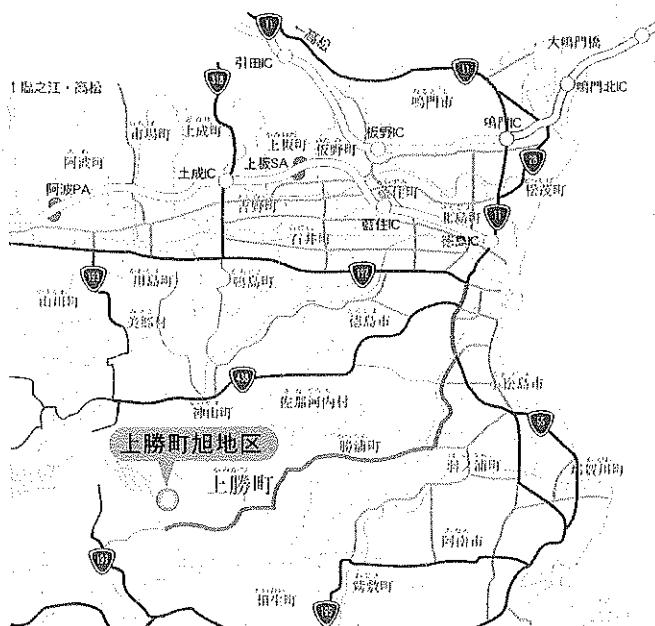
・千年の森づくりに賛同する周辺の森林所有者による長伐期の森づくりを目指すゾーンです。

◇千年の森ふれあい館の建設
高丸山千年の森の管理事務所を兼ねた体験交流施設として、本年

度末に建物本体が完成する予定です。館内には、森と人との共生をテーマとした展示室や森林・林業に関する学習や、交流活動に利用するレクチャールームを設け、千年の森を案内したり、森林環境教育のための様々な体験型プログラムを提供する計画です。

三、おわりに

平成十六年秋期には、本県で全県育樹祭が開催されます。こうした中で、本事業を全国育樹祭の記念事業として位置付け、森づくりへの気運をより一層高め、県民の森林・林業への理解や協力意識が深まるよう事業推進に取り組むことをとしています。



「高丸山千年の森」位置図

おしらせ

「緑の募金に」と百万円を寄付

去る二月一日、脇町農林事務所林務課主査 馬場藤孝氏（代理、令夫人）が、徳島県庁で、「ごくしま森とみどりの会」に退職記念として百万円を贈った。

馬場夫人が同会の佐藤常務理事に、「些少ですが、森林づくりに役立ててください」と寄付金を手渡した。

同会では、馬場氏からの温かいご厚意を「森林整備や緑化推進事業」に有効に活用したいと感謝していた。

馬場氏は、昭和五十四年に徳島県に入府し、以来二十四年間、林業普及指導や保安林整備事業等に尽力され、徳島県の森林・林業の発展に貢献されました。

この度、体調不良により退職されますが、今後とも尚一層ご自愛され、ご健康を回復されますようご祈念申し上げます。

特集

巨樹・古木を 未来へ

はじめに

樹木の寿命はとても長く、なには屋久杉のように樹齢が三千年を超えるような古木もみられます。そして、長い年月を生き抜いてきた樹木は見る者を圧倒するような巨体となり、威風堂々とそそり立つその姿に人々は気高さを感じ、畏敬の念を持つて接してきました。

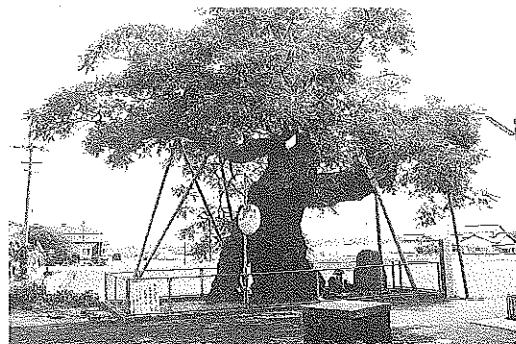
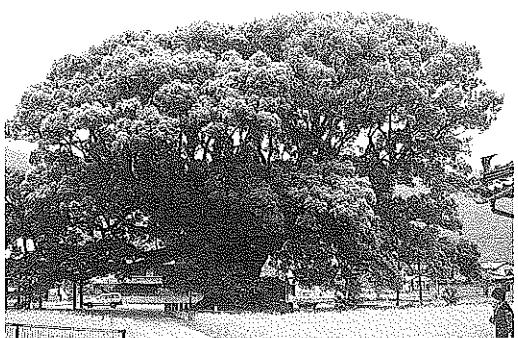
そのため、巨樹や古木は古くから人々の信仰の対象となり、手厚く保護されてきました。

私たちの住む徳島でも、たくさんの巨樹や古木を見ることができます。今回は代表的ないくつかを紹介します。

加茂の大クス 三加茂町

国指定特別天然記念物

念物に指定され、本県の代表的な巨樹といえるでしょう。樹齢は千年余りと推定されています。源平の時代から、明治、大正、昭和、平成



と本県の歴史と共に生きてきました。幹周りは十三メートルもあり、天に向かつて高々とそびえ大空に

として指定されました。日本で二番目に古いセンダンで、樹齢は四百年余りと推定されています。現在では台風などの影響を受けて枝が折れるなど、様相はずいぶん変わってきてはいますが、樹高八・九メートル、樹冠は東西に十四・六メートル、南北に十五・二メートル、幹周りは九・二メートルで傘状に広がり、幹の下部は大空洞となり、

赤羽根大師の工ノキ 一宇村

これにみる名木です。

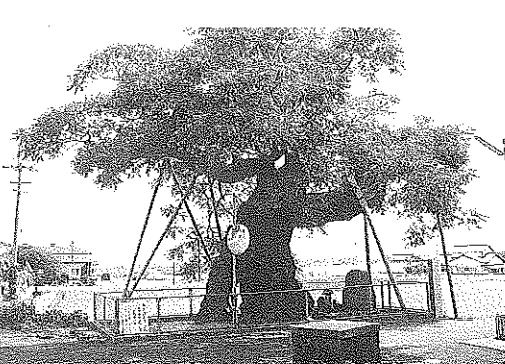
赤羽根大師の工ノキ 一宇村

野神の大センダン 阿波町
国指定天然記念物

昭和三十一年に国の特別天然記念物に指定され、本県の代表的な巨樹といえるでしょう。樹齢は千年余りと推定されています。源平の時代から、明治、大正、昭和、平成

平成十一年に県の天然記念物に指定されました。幹周は八・七メートルもあり、まさに日本一の工ノキです。一宇村では平成十年五月、全国で巨樹の調査や保全に取り組む環境団体・巨樹の会(本部・東京、平岡忠夫代表)の協力を得て、村内に自生する巨樹十四種類、二十四本を調査しました。その結果、工ノキの他、四国一位のアカマツ(奥大

ゆつたりと広げた枝は、東西に四十六メートル、南北に四十メートルにもなります。全国各地には多くの大クスがありますが、ひとつこの樹で鎮守の森を思わせるほどの大きさは、まさに日本一と言えるでしょう。



地上三・五メートルの所からは三方の枝に分かれるなど、いかにも長い年月を生きのびた老樹の風格があり、一見、盆栽の観を呈し、ま

特集

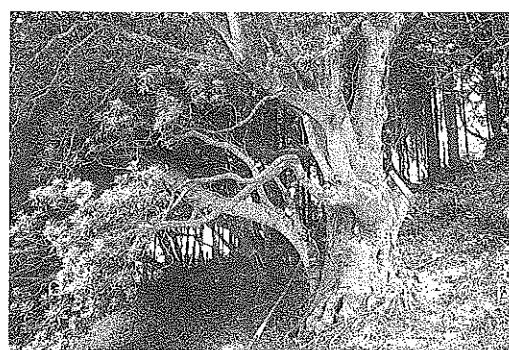
野やトチノキ(桑平)、四国二位のモミ(蔭)など、貴重な巨樹が次々と確認され、「巨樹の里」として一躍一宇村の名を全国に響かせました。

ホルトノキ 阿南市
県指定天然記念物



保存されている貴重な樹林です。その樹林の中でも一際大きく存在するのがこのホルトノキで、幹周りは約五・八メートル、四国最大の樹とされています。

由岐のヤマモモ 由岐町
県指定天然記念物



うち一本が昭和六十三年の台風で折れて、今は金属板で蓋をしていますが、樹勢は旺盛で初夏には大粒の果実をたくさんつけます。

峯長瀬の大ケヤキ 神山町
県指定天然記念物



周囲十二・六メートル・国の特別天然記念物)が日本一ですが、峯長瀬のケヤキの幹周りは十・四メートルもあり、四国では最大限と言わ

おりに

今回紹介した巨樹や古木は国や県に指定されている天然記念物ですが、県内にはこの他にも数多くの巨樹、古木、名木が分布しています。

また近年では、本県の一宇村の他にも二戸市(岩手県)、最上地方(山形県)、奥多摩町(東京都)、御藏島村(東京都)、対馬(長崎県)など全国各地で巨樹を活かした地域づくりも行われており、人々の巨樹に対する関心の高さがうかがえます。

私たちの財産である貴重な巨樹や古木を未来へと継承していくため、今後も積極的な保護・管理を行っていきたいものです。

長生町王子神社の社叢内にあり、三十一年に「長生の暖地性樹林」として県の天然記念物に指定されています。この社叢はイヌノキ、ヤマモガシ、ナギなど十数種の暖地性樹木が自然植生のまま社叢として

昭和六十二年に県の天然記念物に指定されています。ヤマモモは「県の木」としても親しまれています。この樹は最も大きく、幹周りは四・三メートル、樹齢五百年と推定されています。四本の大枝の

昭和五十一年に県の天然記念物に指定されました。樹齢は約五年と推定されています。幹部の樹皮の痛みはみられますが、樹勢はまだまだ旺盛です。

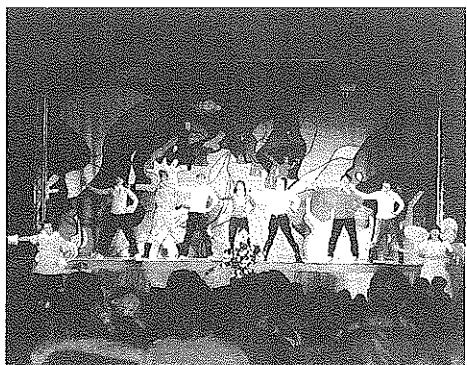
幹の大きさでは、山形県東根市の東根小学校内にあるケヤキ(幹

林研とみんなの情報交流コーナー

上勝小学校で森林 ミュージカル上演

去る十二月十五日、上勝小学校において四国大学児童学科学生の企画・主演による森林ミュージカル「山づくり物語」～今、力を合わせて～が上演されました。劇の内容は、山を大切にする住民が手入れを続けている「みどり山」と開発を行つてドリームランドをつくった「キラキラ山」を対比させ、子供にもわかりやすく森林の大切さを教える内容で、PTA・児童あわせて二〇〇名の観客を感動させてくれました。劇の製作にあたり学生は、森林学習や体験活動として何度も上勝町に足を運び、林研グループをはじめとする地元関係者との交流を通じて、内容を深めていきました。四国大学では、平成十五年度も森林を題材としたミニユージカルを制作する予定で、林研グループの協力で、学生と子供達が、一体となつて森林について考えるこの企画を、指導区としても積極的に支援していきたいと思っています。

徳島農林事務所 早田健治



山城町でH型架線集材

山城町の栗山県有林で間伐材を搬出するために、H型架線の架設作業が行われました。

約八百メートル離れた尾根に二列のワイヤーロープを張るために、模型飛行機が使われました。

作業は今年一月の風の少ない日の早朝を選んで行われましたが、見事な操縦テクニックで瞬く間にリードロープが張られました。

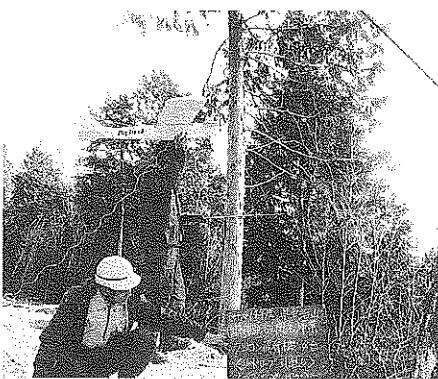
H型架線集材は、谷で挟まれた場所に限られますが、間伐木を垂直に吊り上げるので、残存木を傷めることもなく、大面積で効率的

な作業ができます。

山城町森林組合では、作業道を使つた小規模な搬出間伐を中心に行つてきましたが、将来の本格的な事業展開を見据えて先導的に取り組んでいます。

集材作業は四月中旬頃まで続く予定なので、興味のある方は是非見学してください。

池田農林事務所 兼松 功



「林研の交流を兼ねた ログワーク講習会の開催」

昨年の十一月十日、十一日の二日間丹生谷林研を講師として管内の林研グループを対象にログハウス作りの技術を学ぶ「ログ

ワーク講習会」を開催しました。

受講した木沢林研、木頭林業振興会、阿南地区林業振興会の面々は、いつもと違うエンソールの使

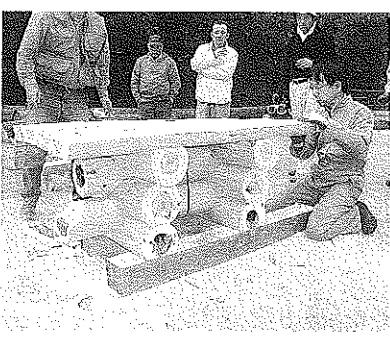
い方やじつとすぐむように線を引くスクライバーに「こりやわんりやい難しいのう」と悪戦苦闘。

それでも、夜の懇親会では、苦労したぶん話がはずみ、林研の輪が広がりを見せようとしています。

年度、木沢村林業研究会が早速ログハウスをつくろうという話が持ち上がりつつあります。来る年も応援していきたいと思います。

やる気と根気、焦らず一步ずつができるよう、AGとしてこれからも支援していきたいと思います。

阿南農林事務所 井坂利章



林研とみんなの情報交流コーナー

間伐利用の木製看板

海部郡宍喰町の林業研究グループの「宍喰町林業後継者」は、間伐材を利用した木工品作成を中心として森林・林業をテーマに、地域に密着した活動を展開しています。

間伐材の木工品については、以前からまな板やプランター・机・椅子等を町の産業祭や林業関係イベントで販売したり、宍喰町商工会の案内板をはじめ、県の間伐促進PR看板等も手がけてきました。今回、県のOURリバーアドプト事業（県の管理する河川のボランティアによる清掃美化活動）に係る木製看板（写真）を海部郡で三千基作成しました。一見、瓦版のようなデザインで道行く人の目を引く存在となっています。間伐材の有効利用としてこれからも、「宍喰町林業後継者」はいろんなデザインの木工品作成に挑戦していきたいとのことです。

日和佐農林事務所 清水保普

「経験がものをいいつ 簡易作業道開設研修開催」

平成十五年一月二十一日、二月二日の一日間、木屋平村八幡の民有林で、村と阿南地区林研グループのフォレストロードとの共催による簡易作業道開設研修が講師に橋本光治さん（上那賀町）・延子さん・忠久さん親子を迎えて開催され林研会員など十三名が参加しました。

路網計画は、地形図・空中写真による事前調査と、林内踏査により決定しました。

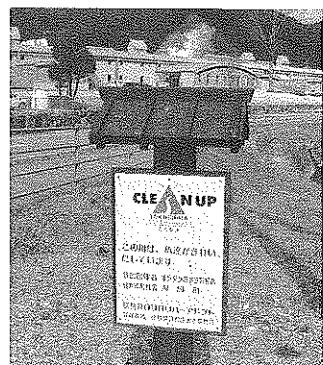
実践では表土の利用、掘削土の天地がえ、根株の利用など、橋本さんの長年の経験による技術を惜しみなく教えていただきました。

二日間にわたる研修で、林内には約四十メートルの作業道が開設され

ました。

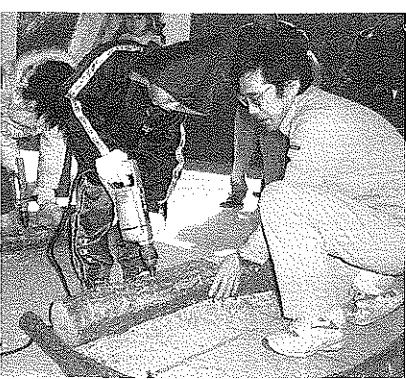
今後、当研修を生かし、より一層作業路の開設が進むことが期待されています。

脇町農林事務所 須恵丈二



「おいしい椎茸 食わず嫌いをなくそう!」

三郷しいたけ生産組合



「おいしい椎茸 食わず嫌いをなくそう!」

小学生に「しいたけ好きですか?」と質問すると、大半の子どもは「好き」と返事が返ってきます。理由を聞いてみると、「味が嫌い」においが嫌い」「歯ごたえが嫌い」そして「形が嫌い」と様々な答えが返ってきます。しかしながら、これらの子供達はある意味で消費の底辺を支えており、消費

交流を続ける予定です。

このため、美郷村しいたけ生産組合では、地元の種野小学校と連携し「しいたけ教室」を開催し、しいたけに対する理解を深め、近い将来に向けての消費拡大を試みました。

小学校3・4年生児童と保護者は、組合員の自作ビデオを中心とした授業の跡、クヌギの原木にドリルで穴をあけ、菌の植え付けを体験しました。そして、今年の秋の収穫に向けての管理方法について学びました。

最後にみんなで焼きしいたけをポン酢で試食したところ、食わず嫌いが改善され大半の児童が「しいたけ好き派」に転向しました。今後とも組合の新しい試みとして、地元小学校との交流を続ける予定です。

木炭づくりと 調湿機能について

徳島県立農林水産総合技術センター 森林林業研究所

森林生産担当主任研究員 細川芳宏

はじめに

木質系資材を再資源化していく一つの選択肢として炭化処理が挙げられます。炭化物(木炭)を有効に活用できるよう様々な方面で製炭技術開発や用途研究がすすめられています。

そんな中、平成十四年十一月の京都で「炭化物利用研究会」が開催され、参加する機会を得ました。その中で「調湿用木炭の機能と製炭方法」(大阪市立工業研究所)を紹介します。

一 優れた調湿用木炭とはある一定の高湿度時に水分を吸収し、逆に低湿度時に吸収していた水分を放出できる機能。

水分の吸収・放出時における吸着速度及び脱着速度などの速度的な働き。

表1 各種木炭の調湿性能

木炭の種類	水蒸気の吸着量(重量%)		
	湿度90% W90	湿度55% W55	調湿能力 W90-W55
白炭 ウバメガシ	12.9	11.0	1.9
黒炭 カシ	14.6	12.7	1.9
クヌギ	8.8	6.2	2.6
ナラ	9.4	6.5	2.9
スギ	11.7	9.0	2.7
竹炭 モウソウ	9.5	6.6	2.9

※高湿度時90%、低湿度時55%と仮定すると調湿能力はW90-W55で表れこれらの値が大きいほど木炭の調湿能力が高いといえる。なお、設定温度は25°Cで測定。

木炭は樹種や製炭過程により数多くに分類されその用途は様々です。表1では木炭の種類によりどのような調湿能力があるのかを示したものです。

白炭や竹炭は高機能炭素材として扱われる事が多いが、今回の試験では木炭の種類による影響は小さく調湿能力はほぼ二~三%でした。

水分の脱着能力は細孔の数だけでなく、大きさも重要な因子であることが分かりました。

二 調湿用木炭の製炭方法

木炭の吸着性能に影響を与える主な因子は炭化中の温度とガスが考えられます。この二因子に変化をつけ三通りの炭化方法により比較検討したものが次のとおりです。

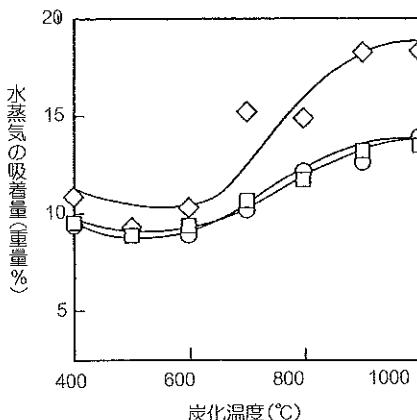


図1 炭化温度と湿度90%での吸着量

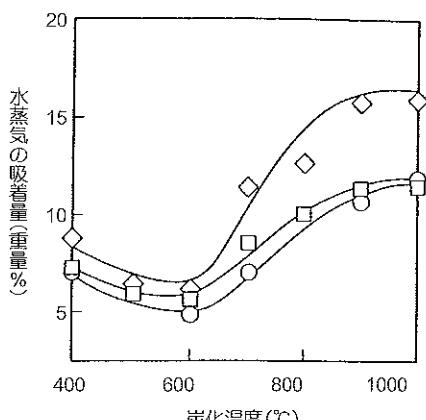


図2 炭化温度と湿度55%での吸着量

- 窒素流通法
ロータリーア式炭化炉に木材を入れて窒素ガスを $500 \text{ ml}/\text{分}$ の速度で流しながら昇温し炭化する方法。
- 空気流通法
窒素ガスの代わりに空気を流す方法。
- 容器法
木材を蓋付き容器に入れ、電気炉中で昇温し炭化する方法。
- 炭化方法を分けて製炭した木炭について、水蒸気吸着量を測定した結果は図一と図二のとおりです。い

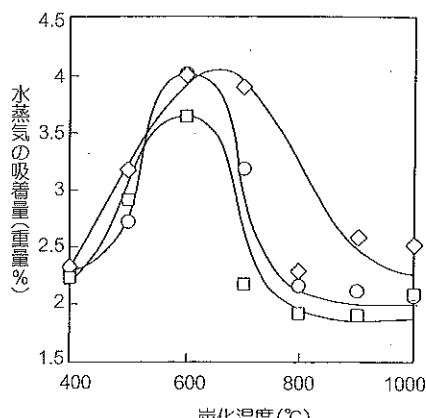


図3 木炭の炭化温度と調室能力の関係

ずれの方法で炭化した木炭でも湿度九十%時での吸着量は六〇〇°Cで炭化した木炭が最も低くなりました。同様に湿度五五%時での水蒸気吸着量は全体に低下し、六〇〇°Cで炭化したもののが湿度九〇%時と同じ動きを描き最低値を記録しました。

湿度(九十%、五五%)変化での調湿能力の差は、図三に示すようになります。吸着量が最低値記録が最大になつた要因は次のことが考えられます。

窒素流通法で炭化した木炭の比表面積と平均細孔直径は表二のとおりです。炭化温度六〇〇°Cが最大比表面積にもかかわらず水蒸気吸着量が最低になつた理由は細孔直径が最も大きかつたためと考えられます。水分子の大きさは小さく、細孔内ではごそごそ状態にあり、周囲からの吸着力が弱いために数値も低く表れました。しかし、逆に

表2 窒素流通法で製炭したヒノキ木炭の細孔構造特性

炭化温度	比表面積	細孔容積	平均細孔直径
500	411	—	—
600	446	0.128	1.15
700	385	0.087	0.90
800	355	0.066	0.74
900	351	—	—
1000	26	—	—

吸着力が弱かつたため水分子が簡単に脱着出来るようになりました。六〇〇°C炭化で最も吸着能力が高かつた原因は、水の脱着作用が容易に行われるためと判明しました。

三 除湿・調湿の認識として
一般に水蒸気の木炭吸着量と気温との関係は、気温が高くなるほど吸着量が低下します。すなわち、日光などを当てて木炭温度を上げ

ることが再生法につながります。重要なのは気温と相対湿度※の関係になります。一定体積の空気中に水蒸気が気体の状態で存在でいる水蒸気量との比。実際に存在している水蒸気量が同量であるので、比の値が大きくなり相対湿度は高くなります。

※相対湿度：気体状態で存在しているにもかかわらず、その能力が最大になつた要因は次のことが考えられます。

おわりに
木炭の利用用途は物理的、化学的、趣味的に大別され、各々の炭化工程システムが確立されなければ炭のもつ本来のパワーが発揮されず一つの健康ブームとして廃れてしまう恐れがあります。そこでメーカーや研究機関等が真相にあたり、よりよい炭化技術開発とその利用方法について試験研究を図っています。

阿波だぬき

「百たたき」

森林林業研究所

高 橋

肇



京都の西陣、出水通りのはずれに觀音寺という淨土宗のお寺がある。徳川家康の時代に伏見城が解体され、その遺構は伏見櫓と呼ばれて各地に移されている。その伏見城の牢獄門に使われていた一枚坂がこの寺の山門のぐぐり戸である。かつては開閉の度に悲鳴が聞こえたといわれている。その由来からこの山門は俗に「百たたきの門」と呼ばれ、今でも出水七不思議の一つに数えられている。

百たたきの歴史は、古くは三国志の時代に遡ることができる。蜀の英雄張飛が酒に酔つて曹豹を百たたきにしたという記述がある。江戸時代には、綱島に百たたきの刑場があり軽い罪人を百たたきの刑で放免したという。当時は、単に軽い刑罰で済ませる意味以上に、罪

人の更生を願う思いが込められていた。

現在の刑法にはこのような体罰は失われているが、この言葉は今も死語になつていいようだ。企業の社会的責任が問われる時代に、不祥事をもみ消そうとすれば

マスコミの総攻撃を受け、消費者の反発を買うことになる。この状況も「百たたき」と呼ばれている。

ゴルフでは「百たたきの会」といえばそれなりのレベルだと分かる。

「百たたき 喜ぶ人と 悔やむ人」

県政にも「百たたきの会」が必要な時代である。

職場の書類にも「持ち出し厳禁」のかわりに「持ち出し百たたき」と書かれていると何となく温かさを感じさせる。日本画に使われる白の顔料は、貝の粉と二カワ

を混ぜて百たたきすると千年の耐久力が生まれるとか。リストラ、肩たたきを避けたいご時世、竹で作られた孫の手に「そこの百たたきとつてくれ」といえば通じそうな気がする。

サウホームでは「百たたき」されない住宅を目指して、社内で予め「百たたき」を実施しているそうである。未成熟な民主主義社会を象徴している。

を混ぜて百たたきすると千年の耐久力が生まれるとか。リストラ、肩たたきを避けたいご時世、竹で作られた孫の手に「そこの百たたきとつてくれ」といえば通じそうな気がする。

を予定しており、参加者の検討結果を反映する予定です。

川島農林事務所 井関廣幸



川島「低」フット簡易作業路のススメ

川島指導区におきましては、林業作業効率を高め、間伐を推進するため、大橋慶三郎氏の理論に基づく簡易作業路の路線計画研修会を実施しました。

研修会場は、美郷村東山小学校において十一月十二日に管内林家及び町村担当者を対象に開催しました。始めにハンドレベルによる簡単な勾配の追い方を実習した後、作業路開設に適した地形である「タナ」を選定し、それを連続させるような勾配を勘案しながら路線計画を選定しました。

この学校林は、来年度保安林設置整備事業にて簡易作業路の開設

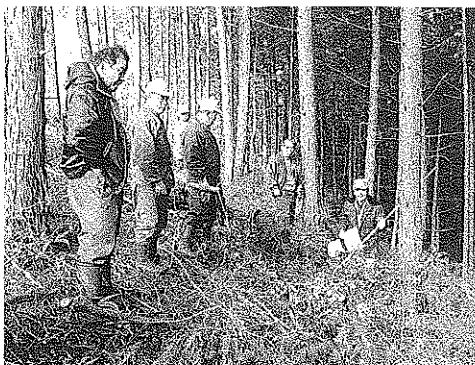
ず森林の役割について勉強したあと、近くのヒノキ林で選木と間伐を行いました。

伐採した丸太は、竹ヘラで皮を剥いで椅子を作りました。また、穂先はそのまま運動場に立てて、クリスマスツリーにしました。

熱心なお母様方が昼食を作り、お父様も現場作業を手伝ってくれました。

小さな学校なのでまとまりがあり、父兄も参加してくれたことで、林業経営の将来を考え直す契機になつたのではないかと思います。

池田農林事務所 佐々木頼孝



池田「絵堂小学校で森林学習」

三加茂町の絵堂小学校で、昨年十一月二十五日に森林学習が行われました。

山間部の学校なので生徒の家庭のほとんどが森林を所有しており、森林の手入れと木の利用法に重点を置いた内容でした。

全校生徒十一名が参加して、ま



徳島「広葉樹苗木生産組合の紹介」

平成十四年六月に発足した上勝広葉樹苗木組合を紹介します。当組合は平成十三年度起業支援事業で指導を行つてきた上勝町広葉樹苗木生産研究会が母体となつて、コンテナ苗木生産を中心に関研究活動を行つてきたもので、千年の森(高丸山)に植栽する苗木の生産も視野に入れ活動してきました。

県内ではあまり例がない自生種による本格的なコンテナ苗木生産を行つており、公共事業での需要を視野に入れていたため、平成五年一月に、公共事業で施行を計画している切り土面の緑化で使用するコンテナ苗木について、コンサルタント会社と県森連を交えて打ち合わせを行いました。当組合の生産した苗木が使用されるか別として、いろいろな意見の交換がされました。

今回の打ち合わせにより、規格・価格の設定、需給調整の重要性が再認識されました。

コンテナ苗木のご用命は是非上

勝広葉樹苗木生産組合で！

徳島農林事務所 小笠原光生



日和佐

県民参加の森 づくり、ボランティア

平成十四年十一月二十三日に県

民参加の森づくりボランティア日和佐地区が日和佐町山河内の林業公社営林で快晴の空のもとに開催されました。

参加者は十五名で、作業はすぎ十

一年生、約二ヘクタールの除伐・枝打ちでおおむね二時間程度、参加者全員が懸命に汗を流しながらの作業となりました。

作業後の休憩中の参加者の会話

では「こんなにきれいになるんだつたら明日も来たいな！」などの声も聞かれ充実感に満ちた作業であったようです。

今後もいつそう内容の充実した県民参加の森づくりをしていきます。

日和佐農林事務所 井上元信

脇町 スギ間伐材化粧型枠 を用いた砂防工事

脇町

スギ間伐材化粧型枠
を用いた砂防工事

平成十四年八月から、美馬郡半田町木ノ内で県脇町土木事務所発注の通常砂防工事が行われています

が、これは擁壁にスギ間伐材を用いた化粧型枠が使われています。

この木製化粧型枠は美馬郡木屋平村内の直径十一～十八cm、長さ二mのスギ間伐材を三方挽きし、幅十cmにした部材を、標準タイプで幅方向に五本あわせたもので、幅は五〇cmです。化粧型枠の販売は木屋平村内の第三セクターが行っています。

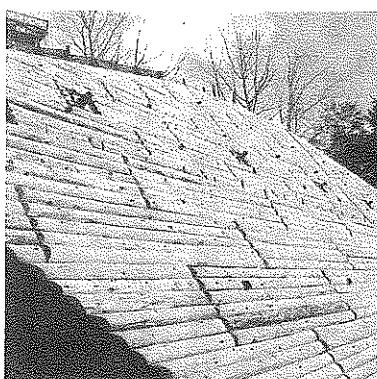
この化粧型枠は砂防ダムや擁壁等の残存型枠として開発されたもので、施工後もコンクリート面が木材によって隠されるので、自然環境に配慮した工法と言えるでしょう。化粧

型枠の使用面積は一七四坪で、使用された丸太は約五五mです。

この現場では今後建設予定の砂防ダムにも化粧型枠が使用される」と

になつており、使用面積が六〇〇m²で、約一二〇m³のスギ間伐材の利用が見込まれます。

脇町農林事務所 坂田和則



阿南 「今年最初の 競り声」

阿南

「今年最初の
競り声」

今年も相生町にある木頭森林組合相生木材センターで土場一杯に敷き詰められた原木一樁一樁に向けて威勢のいい競り声がかけられました。年明け最初の市ということで毎年恒例の「丹生谷優良木材展示即売会」が去る一月二十二日に開催され、

スギ・ヒノキ各々に審査が行われ優良木材出品者に対して県知事賞を始め各賞の表彰がありました。

今回の出材量は約二千三百立方メートルに上り、優良木材の展示即方メートルと、最近の市の市では高値がつき、県内を始め四国や近畿地域から集まつた約八十人の製材業者が求めた原木を競り落としていました。

も前年度末に比べ二千円超高／立方メートルと、最近の市の市では高値がつき、県内を始め四国や近畿地域から集まつた約八十人の製材業者が求めた原木を競り落としていました。

このような記念市は、生産者の林業に対する経営意欲を継続させる手段として不可欠であり、地域の基幹産業である林業の風物詩として大切にしていきたいと感じました。

阿南農林事務所 脇田 太

